

火事への考え

山本 咲

わたしは、いままで火事について考えたことはありませんでした。それは、わたし自身火事にあつたことがなく、火災のニュースをみても自分のこととは感じられなかったからです。

ところが昨年、家の近くで山火事が起きました。山火事は日を追うごとに広がっていき自然の力のおそろしさを感じました。この山

火事で火災について考えるようになりました。火災について考えていると、消防署に見学へ行つたことを思い出しました。消防署では火災けい報器の大切さや、けむりのこわさなど、何を学びました。実際にけむりのじゅう満する部屋に入る体験しましたが、出口がみえなくなると、けむりで真っ白になって、とてもこわく感じました。消防署の方の話によると、火災けい報器をつけていない家もあるということでした。わたし

しは、火災けい報器をつけていない人は以前
のわたしと同じように火事とけむりのこわさ
を知らないのだと思いました。

わたし火事や火災にあわないために二つの
ことをしようと考えています。一つめは火の
あつかいに気をつけることです。例えば、料
理の火をちゃんと見たり、花火をした後に火
をけしたりするなど、自分でできることをせ
い、はいしたいです。二つめはみんなに火
災のこわさを知ってもらうことです。なぜな

らわたしが気をつけるだけでは火災はへらな
いと思うからです。そのためには火災のこわ
さをみんなに伝えなければいけません。火災
のこわさを伝えるために、ポスターや自主学
習の発表などの機会をつかって火災のこわさ
を伝えたいです。そして火に気をつける人が
増えて、火事がへればいいと思います。